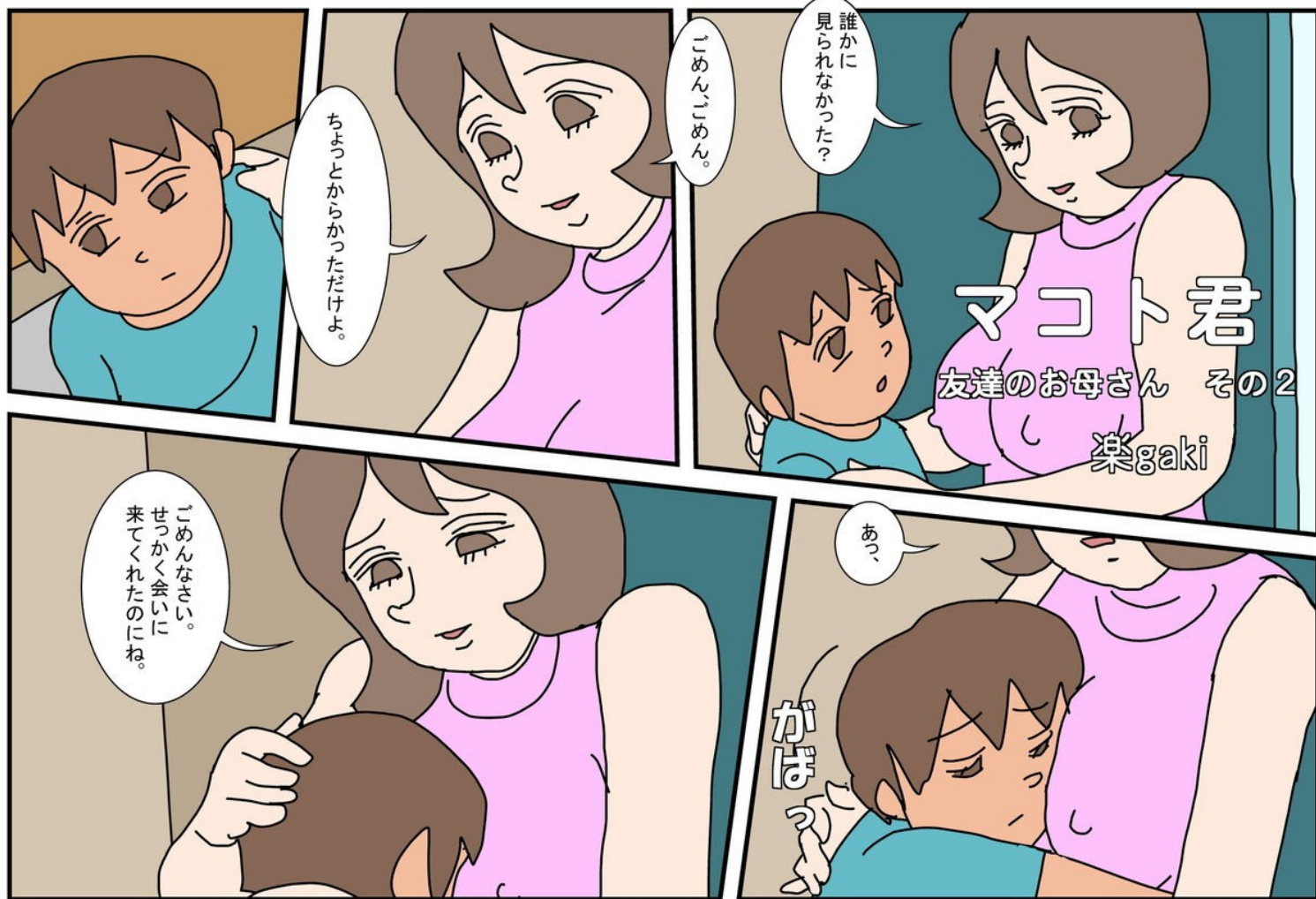
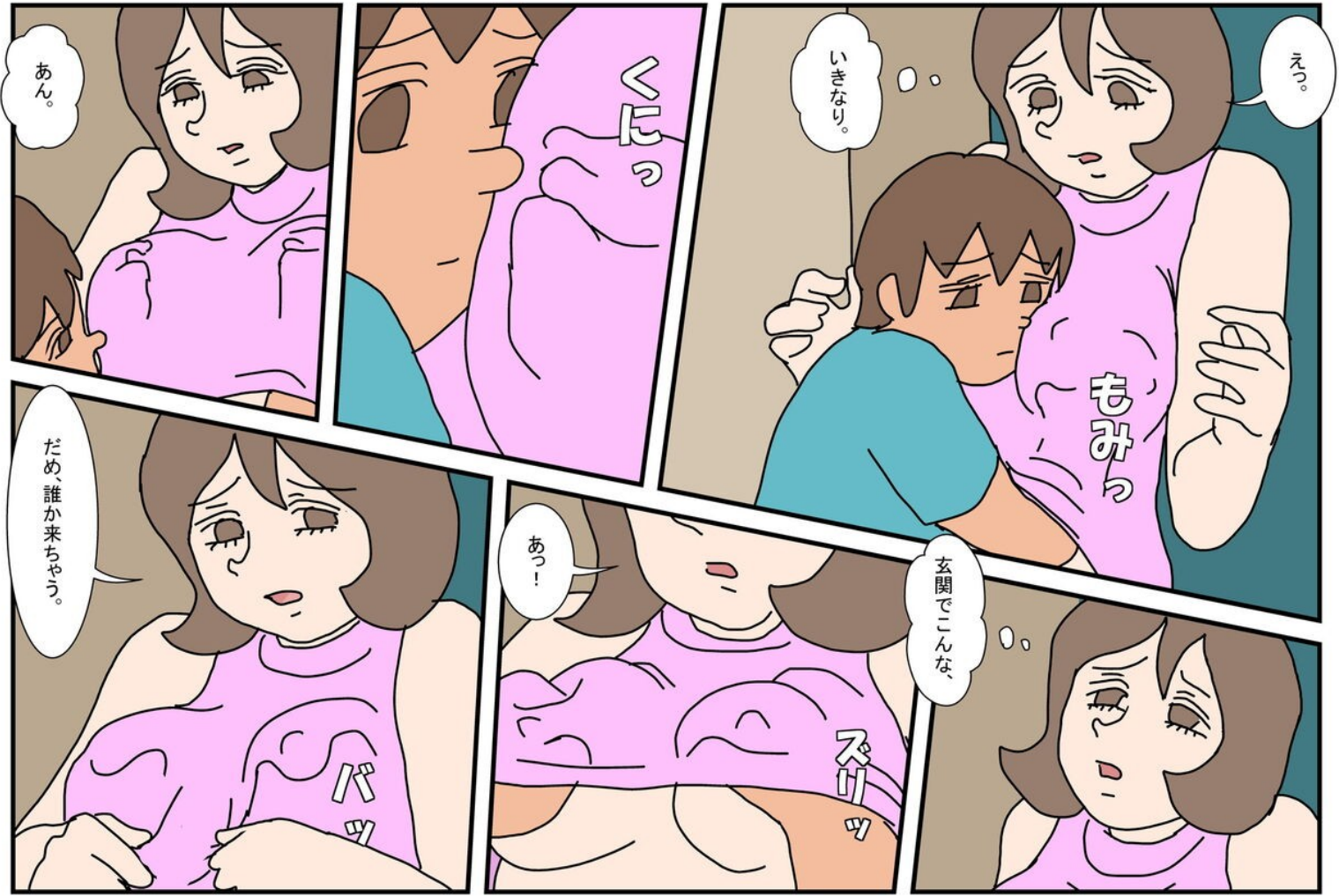
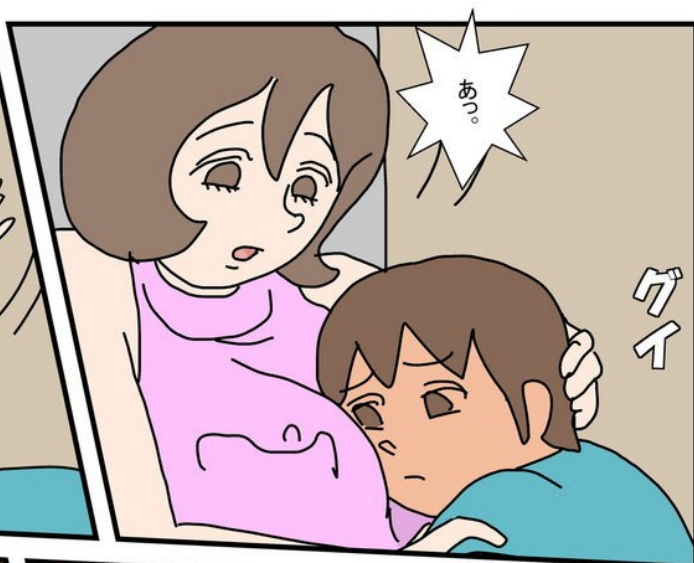


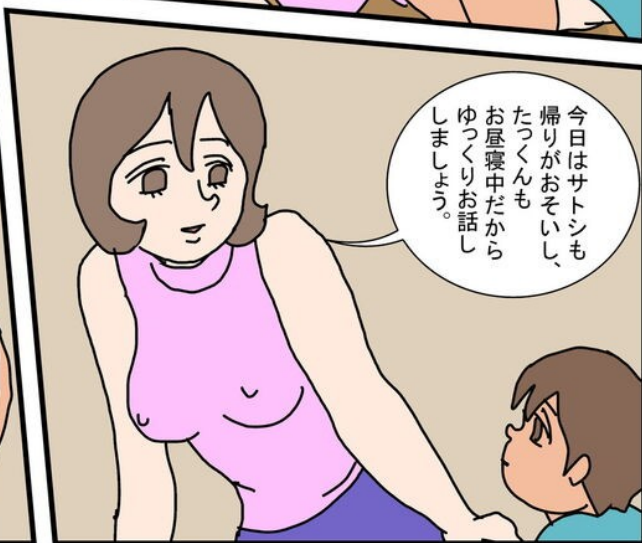
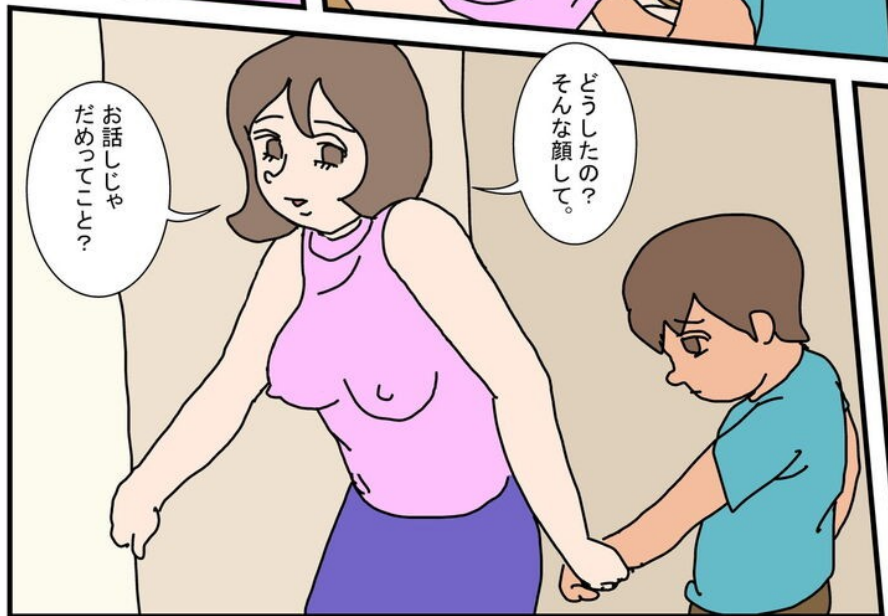


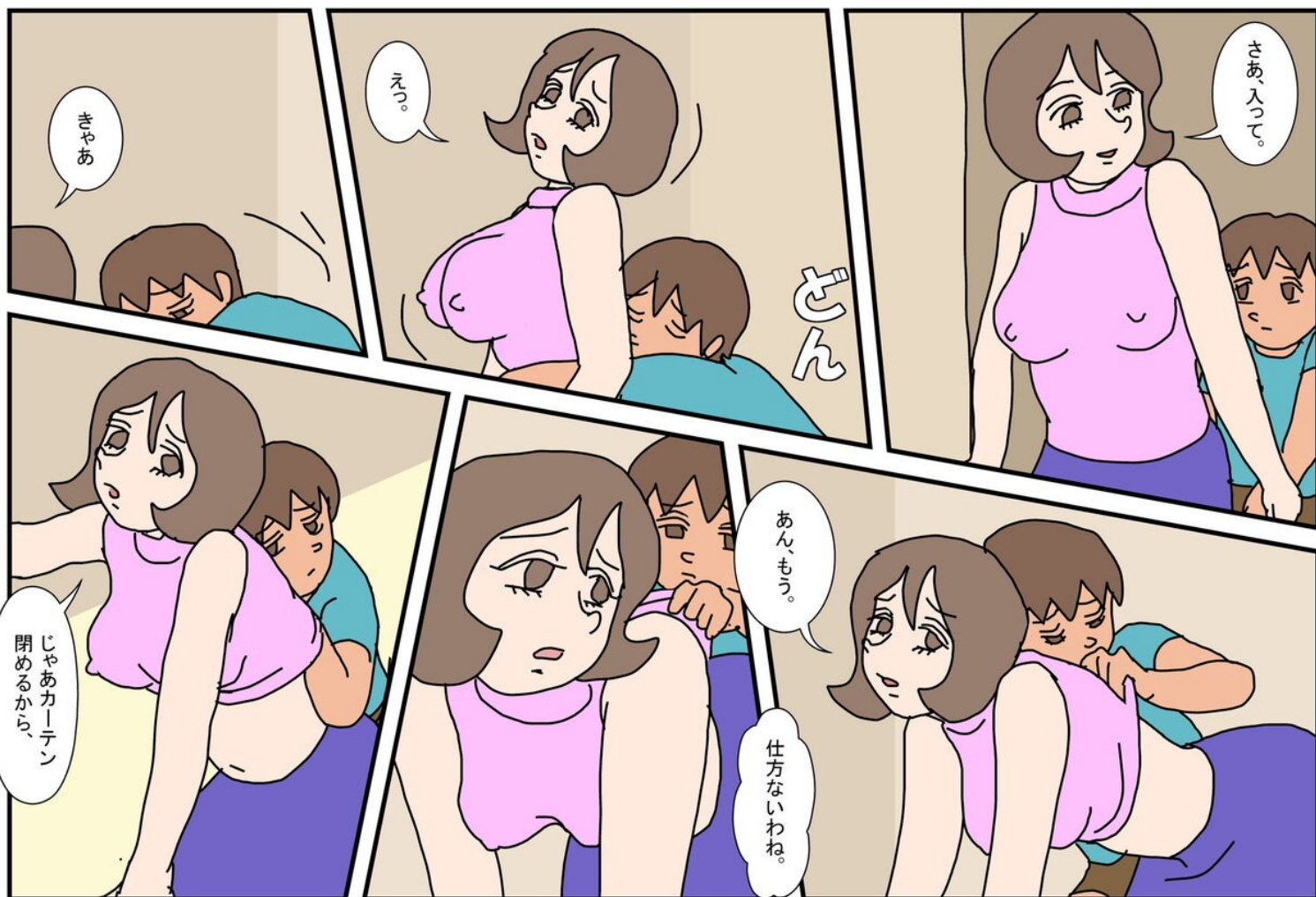




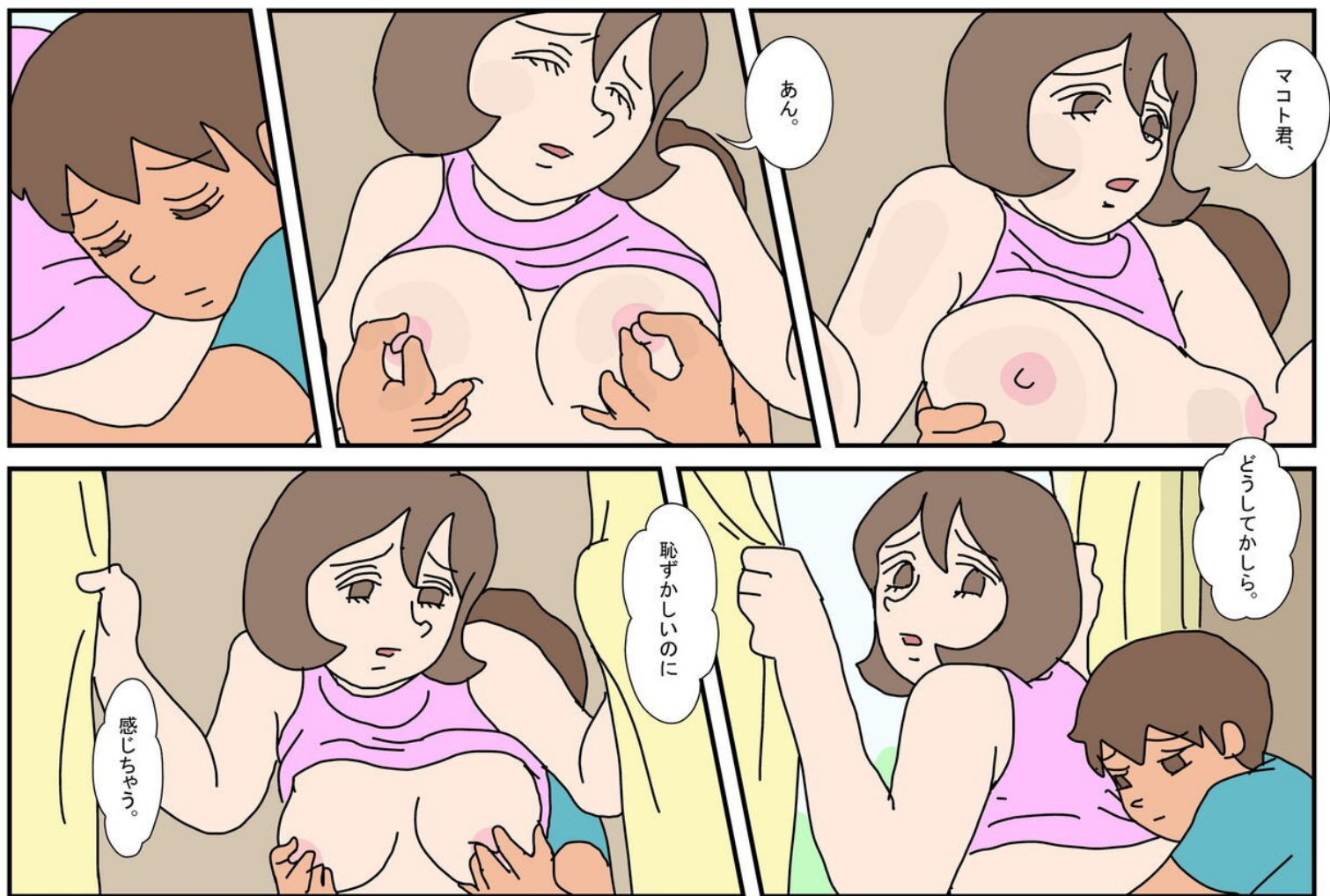


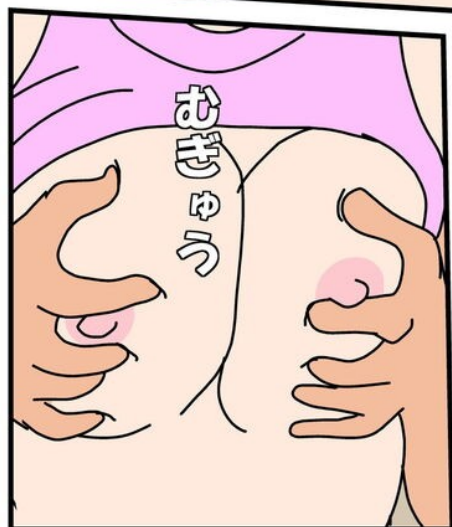
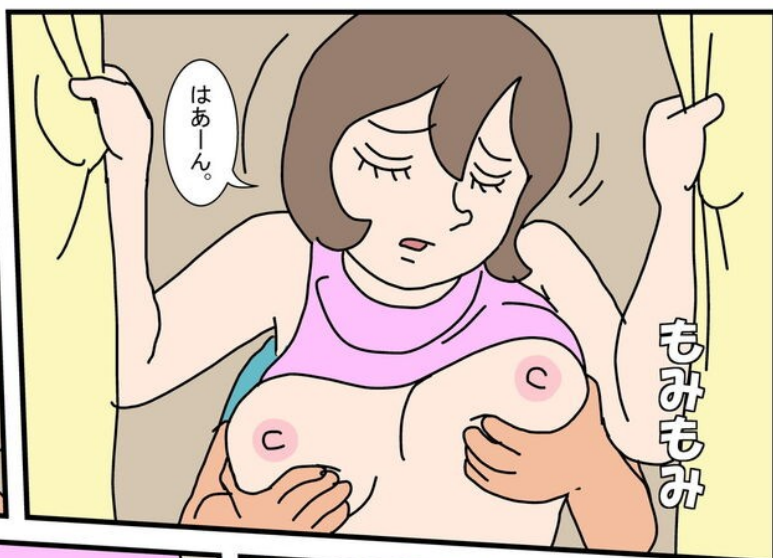


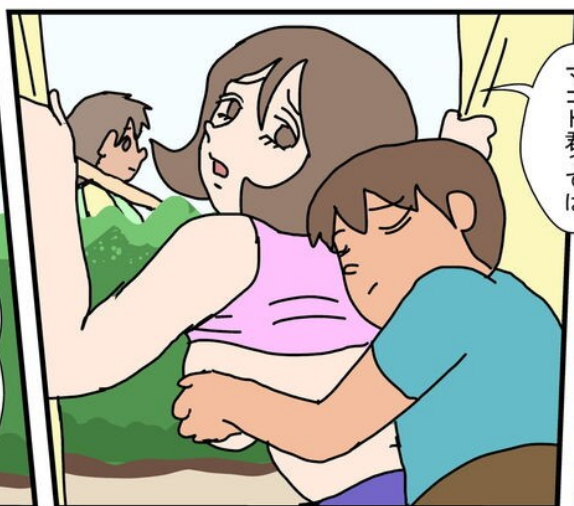






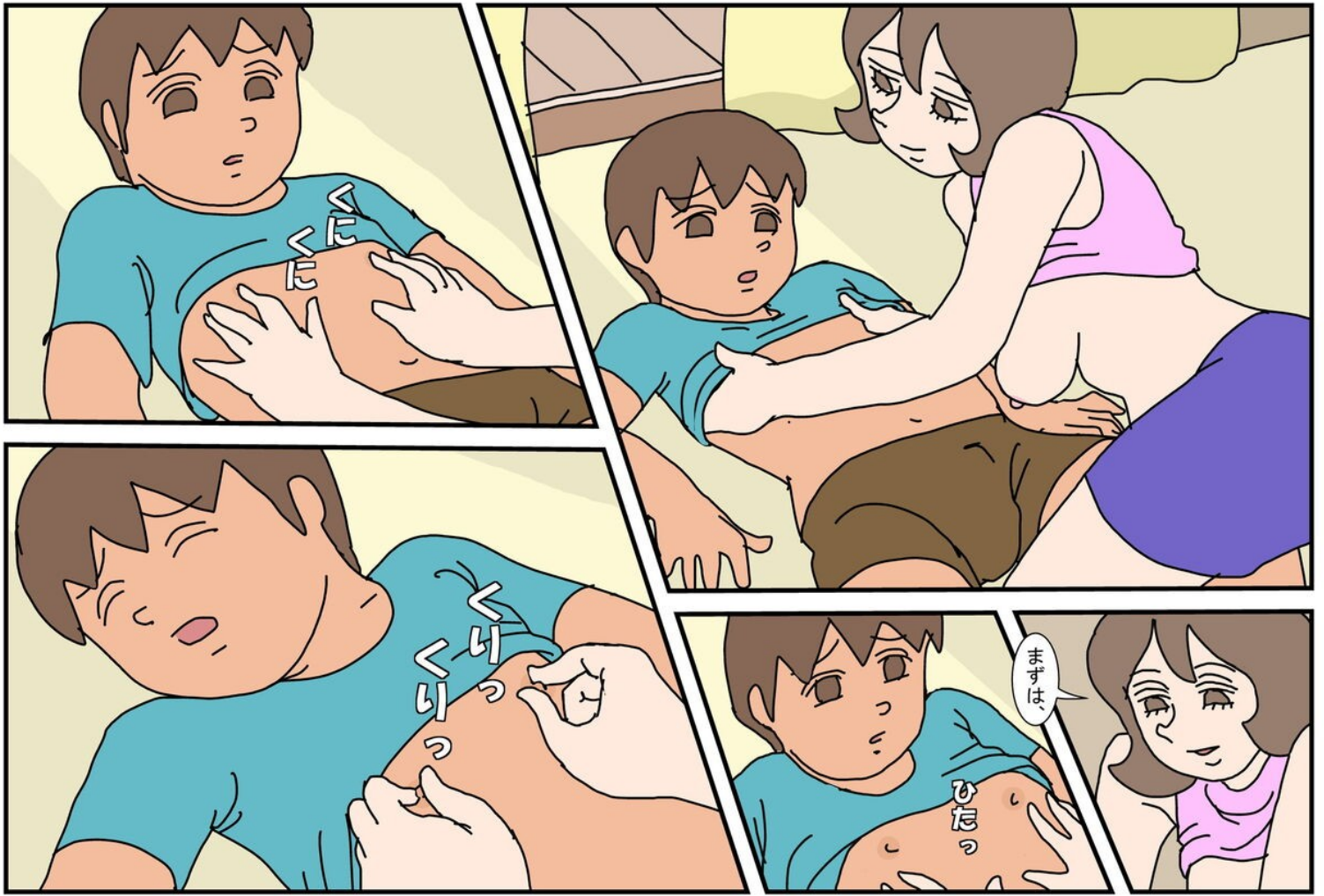




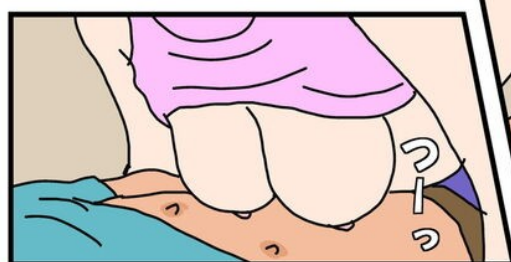
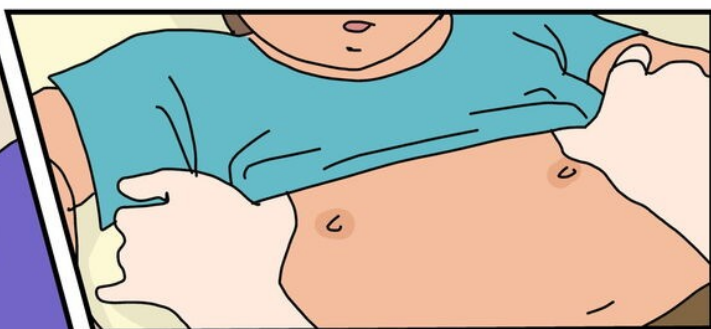
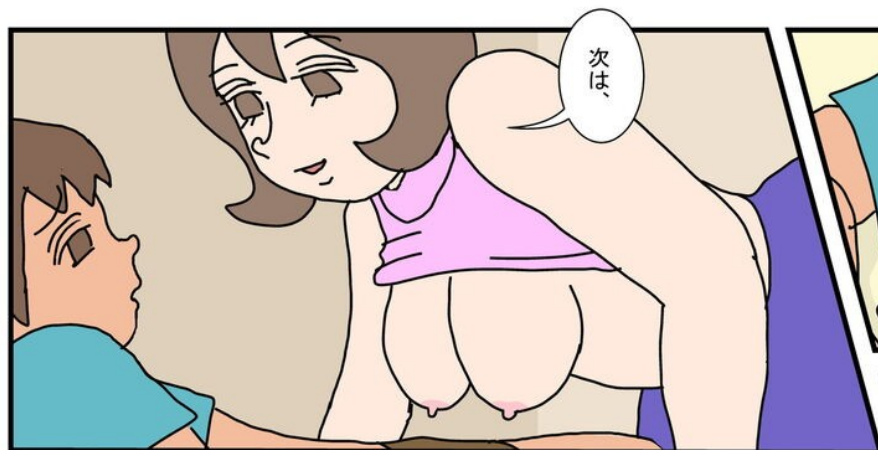


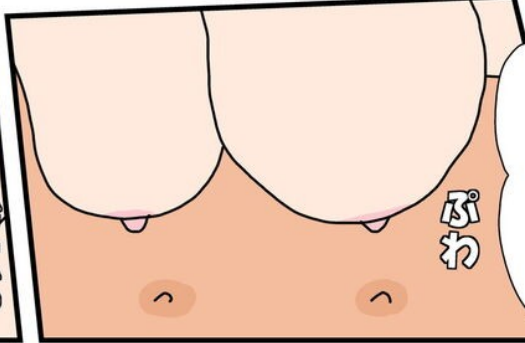
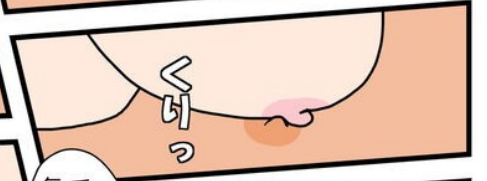
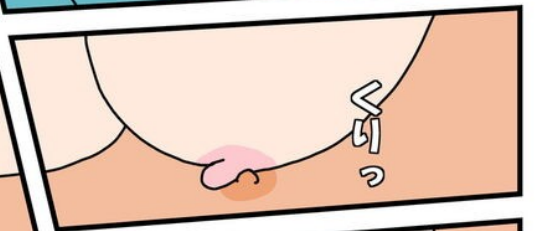
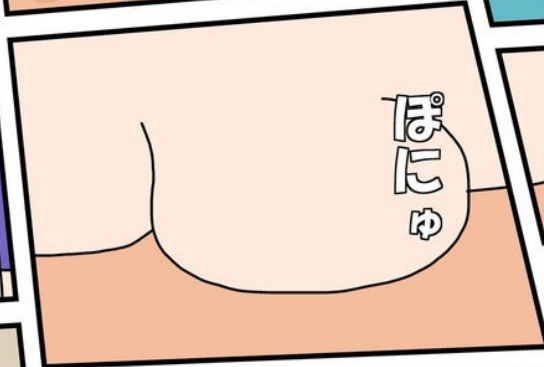
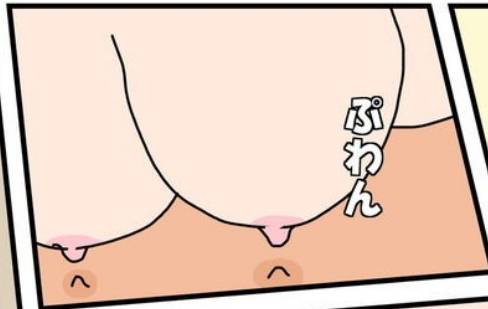


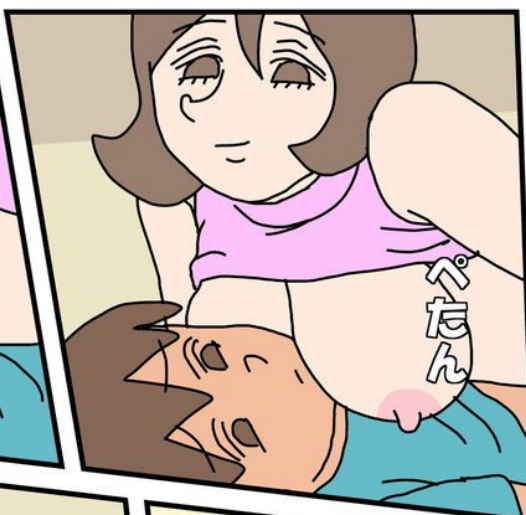
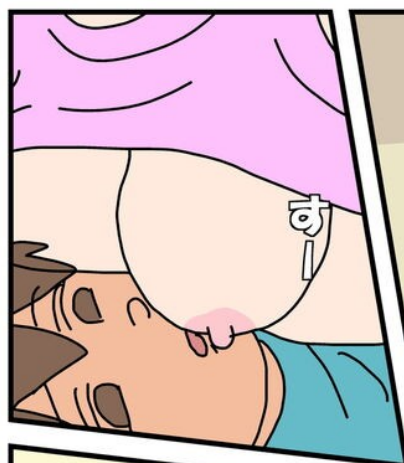








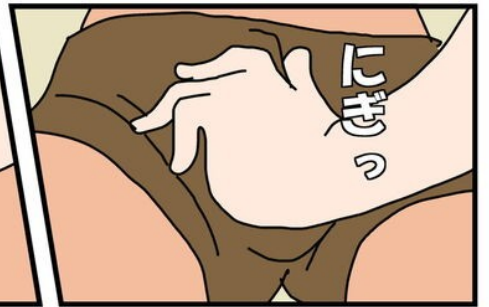
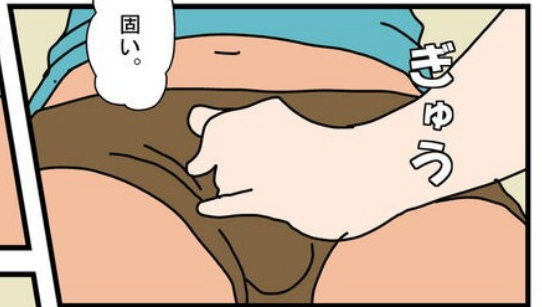
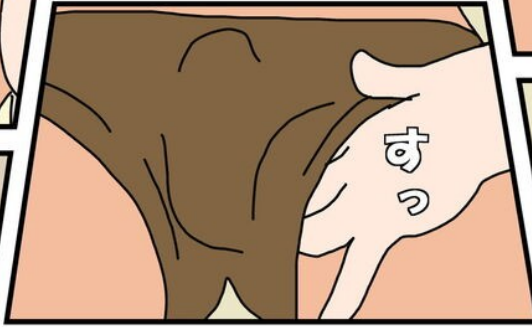
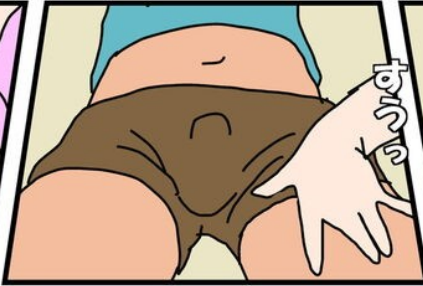


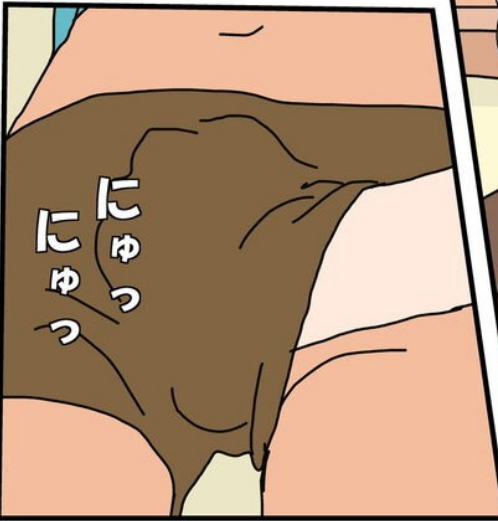
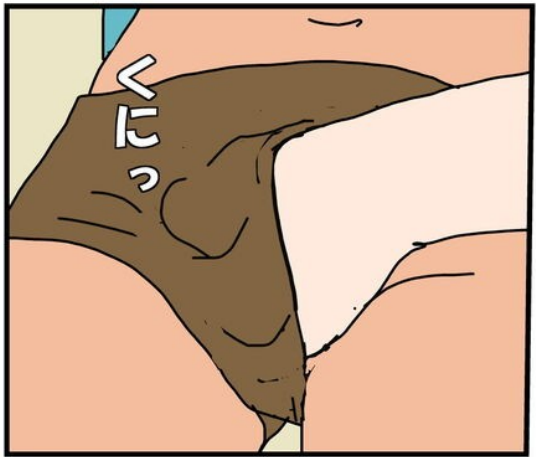






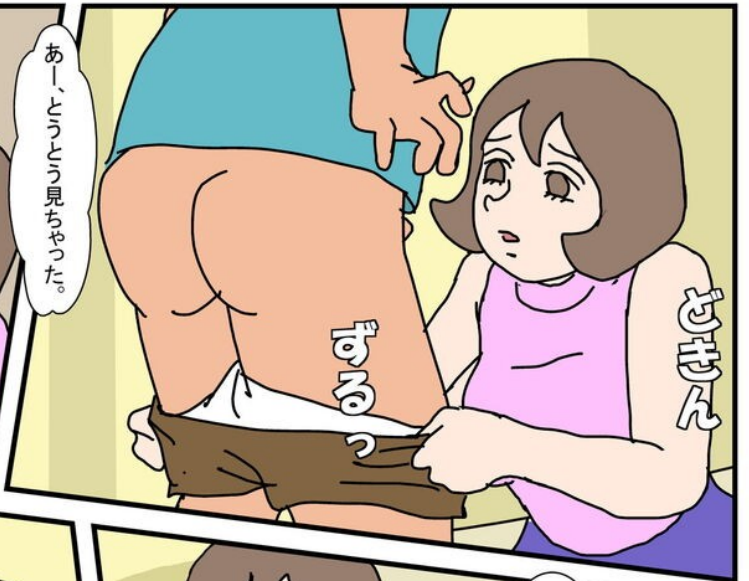


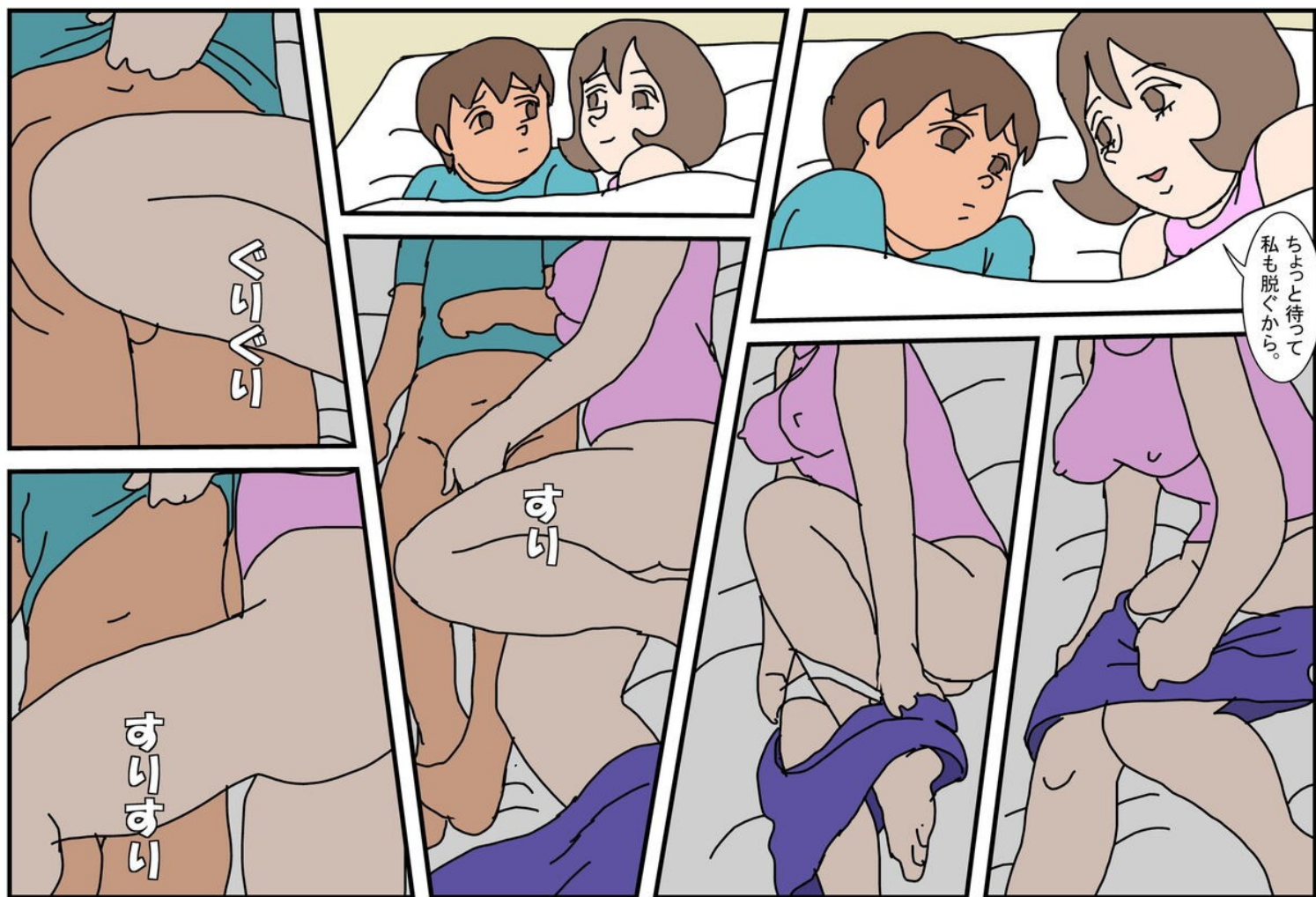


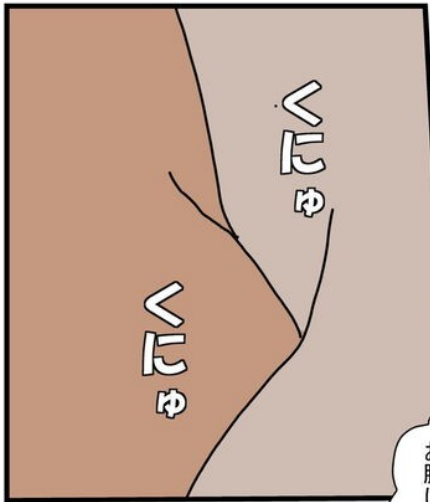












あら、マコト君のが
お腹に当たってる。





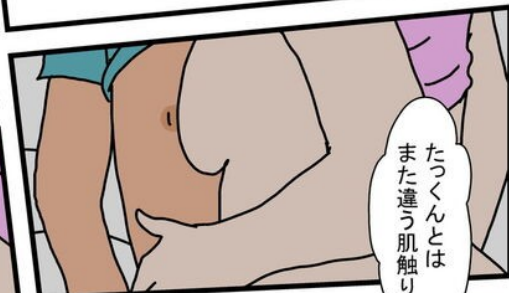
あ、っんっんしてる。



どうしたの？



あ、気持ちいい。



たっくんとは
また違う肌触り。



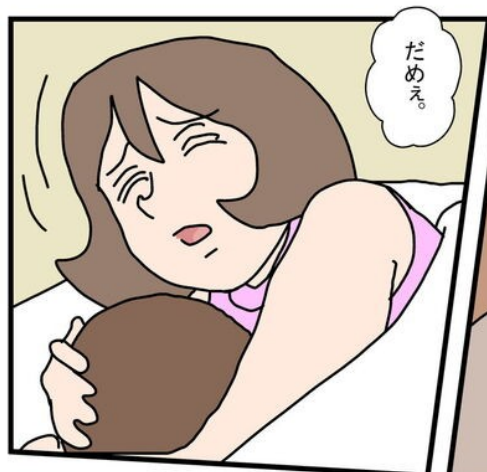
動いちゃダメ、
入っちゃう。



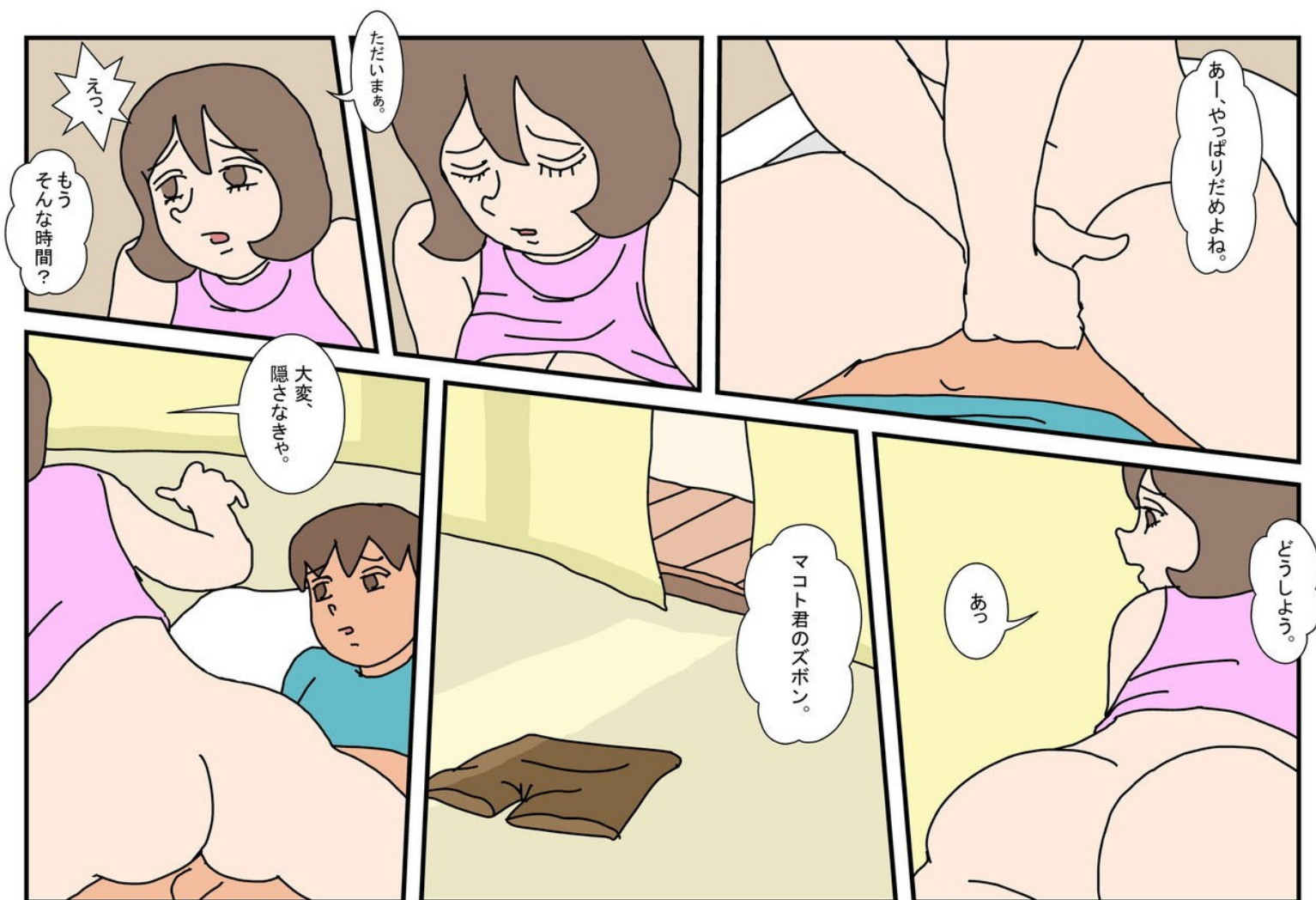
あ、そんなに下がったら
さきっぽが当たっちゃう。



脈打ってるのが
伝わってくる感じ。



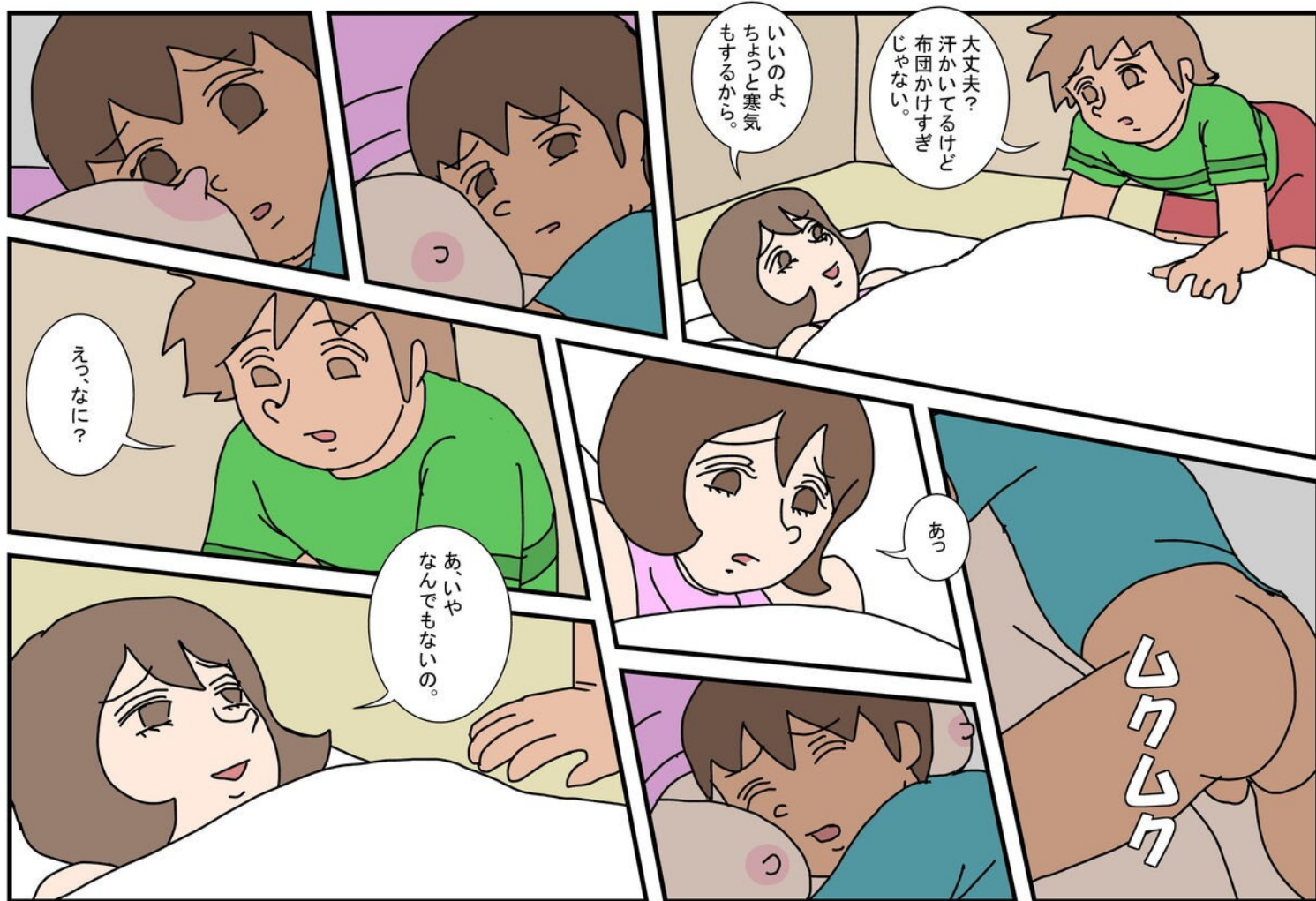


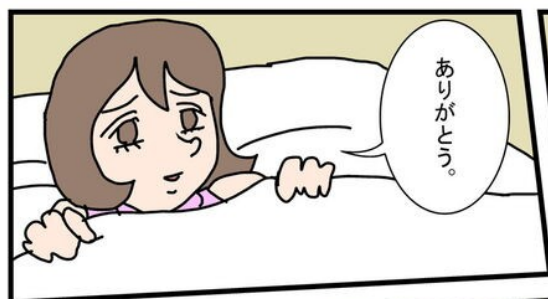


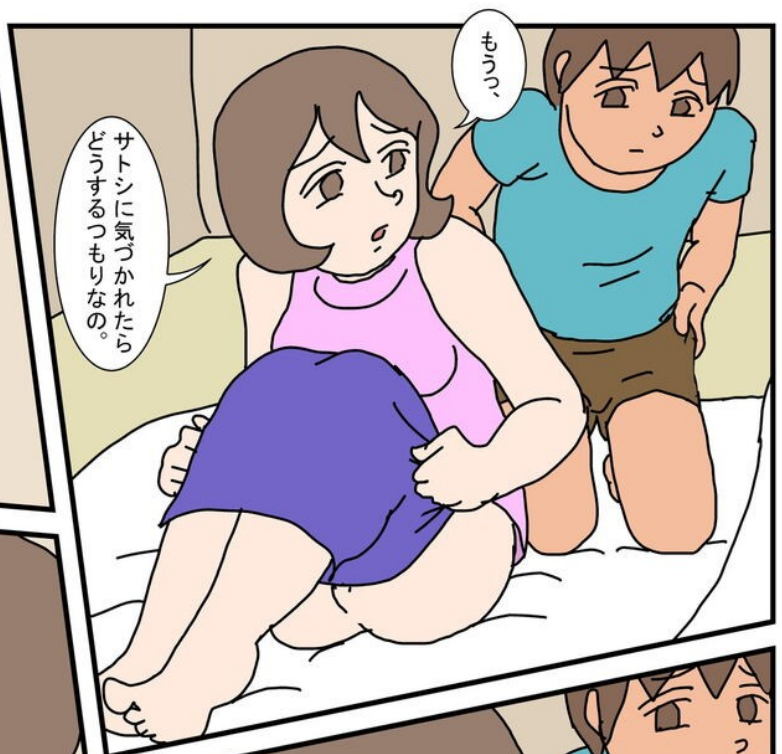
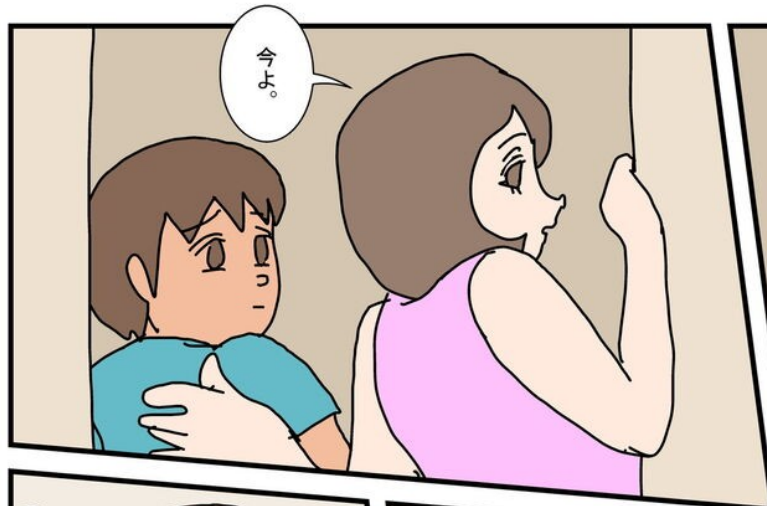


少し疲れただけよ。









つづく